

令和 7 年度前期「授業改善メモ」のまとめ

共通教育センターでは、前後期末に学生に向けて「授業改善に資するアンケート」を実施している。この「授業改善に資するアンケート」の結果に対する所見、および、教育改善のための有益なコメントや要望等を授業担当教員から「授業改善メモ」として提出してもらい、内容をとりまとめてホームページ上に公開している。

以下、令和 7 年度前期の授業に対して提出された授業改善メモを

- 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間
- 2) 受講生が実感する学習成果
- 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み
- 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点
- 5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

に分類し紹介する。なお、公開にあたり、記述の一部を整理・編集している場合があるので、その旨ご了解いただきたい。

初年次セミナー I

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・学習時間は少ない印象であるが、単なる時間量だけでなく、普段から「考える」姿勢が最終プレゼンテーションや提出物から確認できた。
- ・「1. 全くしなかった」層(3.0%)は論外であり、「2. 30 分以下」層(33.6%)については、さらなる引き上げが必要であり、テキスト講読や事前・事後学習への取り組みについて助言を行った。
- ・学習時間が 1 時間未満と回答した学生が多い印象を受けた。
- ・毎時間の小レポート作成に数時間を要している学生も多く、「400 字以上」と設定したことにより、想定以上に時間がかかっている実態が明らかとなったため、レポート作成時間を授業外学習時間として適切にカウントするよう助言した。
- ・学習時間は 30 分以内から 4 時間以上まで著しくばらついていた。
- ・グループプレゼンテーション準備にかかる時間や役割分担が、受講生間で大きく偏っている可能性があり、前年度から改善されていない点が懸念される。カリキュラム改訂時には、本アンケート結果を受講生に提示し、プレゼン準備の負担に深刻な偏りがあることを来年度必ず明示する必要がある。併せて、ワークシート提出期限の延長についても検討が必要である。
- ・全体として、大学設置基準が定める学修時間には遠く及んでいないため、学修時間分布の結果を踏まえて検討する必要がある。
- ・多くの学生は 1～2 時間程度の時間外学修を行っていたが、少数ながら 2 時間以上取り組んでいる学生も存在した。
- ・学生が課題に取り組む際、課題内容に関する知識レベルの差が影響している可能性があり、その点への配慮が必要であると感じたため、クラスによっては、課題内容や指示の明確化が求められる。
- ・引用に関する独自の指導を行ったこと、ならびに良いプレゼン資料を作成しようとする学生が多かった

ことが、その要因であると考えられる。ただし、向上心の高い学生が多く履修していた可能性もあり、この点は授業担当者自身の努力のみによるものではないと認識している。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・全体として学習成果はおおむね良好である。
- ・「1. 十分得られた」層が 51.3%、「2. おおむね得られた」層が 43.3%であり、合計 94.6%の学生が肯定的に評価していることから、受講生にとって満足度の高い学習成果が得られていると考えられる。今後も授業を通して、本授業科目を履修する意義について繰り返し説明していく方針である。
- ・グループ学習に対する評価は必ずしも高くなく、否定的な意見も見受けられた。
- ・班編制に対する不満があるが、自由に班を編成すると学科ごとに固まる傾向が強く、学修効果の観点から課題がある。
- ・概ね多くの学生が学習成果を実感しているものの、「十分得られた」と回答した学生は約 3 割にとどまり、「意義なし」と回答した学生も一部存在した。
- ・授業内容自体は洗練されつつあるが、グループワークにおいて十分に意義ある活動ができていない学生がいる可能性があり、学生プレゼンテーションに対する教員からの具体的かつ丁寧なフィードバックを一層充実させる必要がある。
- ・自由記述欄の内容からは、一定の学習成果が得られている様子がうかがえた。
- ・クラスによって学習成果に関する評価が大きく異なっていたため、クラスの学力や理解度の水準に応じて、授業内容や進め方を柔軟に調整する必要がある。
- ・引用については早期に正確に行えるようになる必要があることを指導しており、その結果、学生側には「まだ引用には自信がない」という感覚が残っている可能性がある。
- ・引用を正しく行えるようになるためには繰り返しの学習が不可欠であり、このような緊張感や謙虚な姿勢を持つこと自体は、学修態度として望ましいと考えられる。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・講義時間内において、できるだけ学生に「考える時間」を与えるよう配慮した。
- ・「1. 積極的に促していた」層が 67.9%、「2. おおむね促していた」層が 29.0%であり、合計 96.9%の学生が肯定的に評価していることから、教員の授業運営は受講生にとって概ね満足のいくものであったと考えられる。一方で、授業スケジュールがタイトであった点については、担当者自身の反省点であり、今後はより一層、自覚的に学生の自主的な考察や取り組みを促すための準備を行う必要がある。
- ・各グループのプレゼンテーションについて、途中段階の成果物を部分的にクラス全体に紹介することで、学生が自らのグループの進捗状況を客観的に捉えられるよう工夫した。
- ・ノートを過度に取る必要がないよう、授業内容に関する資料はすべて事前に公開した。
- ・グループプレゼンテーションに対して前向きかつ積極的に取り組んだ様子がうかがえた。
- ・グループプレゼンに対する評価をまとめるワークシートにおいて、プレゼン内容に関する疑問点を必ず記入させることが有効であると考えられる。
- ・グループワークの進め方を工夫し、主体的に学べる環境を整えたことが、一定の効果を上げていると考えられる。ただし、グループワーク自体を好まない学生が多い年度には運営上の負担が大きくなるため、今期は比較的前向きな学生が多かったことによる影響も否定できない。

4)授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・テキストやワークシートには記載されていない、教員自身の体験を例示した説明が高く評価されていた。
- ・「1. とても良かった」層が 52.3%、「2. おおむね良かった」層が 41.8%であり、合計 94.1%の学生が肯定的に評価していることから、大方の受講生の満足を得られていると考えられる。
- ・動画を撮影し、客観的に自分自身を振り返ることができた点、グループでの協調性が高まるような課題設定であり、その過程で大学生活に必要なスキルを習得できた点が評価されていた。改善点としては、話し合いや考える時間をより長く確保してほしいという意見が見られた。今後は、説明の時間をできるだけ短縮し、考察やディスカッションの時間をより多く確保できるよう工夫したい。
- ・授業内容を動画配信で再度閲覧できるようにしてほしいという要望があったため、授業内容はすべて動画配信し、学生が復習できる環境を整備した。
- ・総合評価は概ね良好であったが、説明が早口であり、より丁寧で明解な解説を求める声、プレゼンテーションスライドに対する助言を求める声、授業時間外でのグループワークの実施が困難、教員からの指示が分かりづらいという指摘が挙げられた。これらを踏まえ、教員からの解説については、口頭説明だけでなく文書としても残す必要があると認識している。特に、オンライン上の「スレッド」による解説については不十分であった点を反省材料としている。
- ・クラスによっては、「教員の解説が多く手持ち無沙汰だった」という意見がある一方で、「グループ活動は不要である」という、正反対の趣旨の指摘も見られた。
- ・全クラスで同一の授業方法を採用しているにもかかわらず相反する評価が存在することから、授業改善アンケートによって一律の「改善」を導くことの難しさが浮き彫りとなっている。このような全教員・全科目を対象とした強制的な授業改善アンケートは、制度として一定の限界に達しているのではないかと感じている。
- ・一部のクラスにおいて評価が低い傾向が見られたため、クラスのレベルや雰囲気に応じて、内容や進め方を調整する必要がある。
- ・良かった点に関する自由記述が多く、複数の視点から評価されていることがうかがえた。ただし、初年次セミナーはクラスの雰囲気に左右される側面が大きく、今期は前向きな学生が多かったことによる影響も考慮すべきであり、授業運営自体は例年と大きく変更したものではない。

5)授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等)

- ・文献の引用については、現状よりも多くの時間を割く必要があると感じている。
- ・再履修生における「受講の完全放棄」の問題が見られた。これは本授業科目に限定された問題ではなく、当該学生の大学での学びに対する意欲や姿勢に関わる課題であるため、全学的な対応が必要であると考える。
- ・事前学習・事後学習の成績公開がやや遅れた。その結果、学生の時間外学習への意欲向上につながらなかった可能性がある。今後は、事前学習・事後学習の成績をできるだけ早期に公開するよう改善したい。
- ・不登校気味の学生への対策が必要である。授業内容はすべて動画配信し、復習や欠席時のフォローができる環境を整備した。
- ・授業内容や評価方法がクラス間で大きく異なっていることに不満を示す学生がいた。当該学生は、単位認

定や成績評価以外に、この講義を受講する意義を十分に実感できていない可能性がある。対応として、成績分布が他クラスと大きく変わらないことを提示し、理解と納得を得ることも検討する必要がある。

- ・授業改善アンケートを今後も実施するのであれば、各受講生の成績とアンケート回答(特に自由記述)をクロス集計・分析しなければ、回答結果の信頼性は担保できないと考える。例えば、授業内で繰り返し説明している内容について質問が出ることは、当該受講生が授業を十分に聴講していない可能性を示唆している。また、「教員の解説ばかりで手持ち無沙汰だった」とする回答についても、その学生が教員の解説に基づいた十分な学習成果を上げていたかは不明であり、単なる批判にとどまっている可能性も否定できない。
- ・授業外学習時間と自由記述の関係は一定程度把握できるものの、学習時間と成績との関係は現状の集計方法では明らかにならない。これらの点から、現在のアンケート集計結果を無条件に信頼することは難しい。さらに、授業担当教員に回答者の氏名を一切開示しない完全匿名方式は、匿名であれば何を書いてもよいという誤った学習態度を助長し、教員に対する人権侵害を招く危険性がある点で、教育的にも問題があると考ええる。
- ・教員は研究者であり、かつ専門的訓練を受けた教育者でもある以上、授業評価は原則として各教員の責任において行われるべきである。仮に第三者評価を行うとしても、同分野の教員によるピアレビューが限界であり、専門性を欠く者による評価には疑義がある。
- ・あるクラスでは、授業には出席しているものの、全く主体的に取り組めない学生が存在した。このようなケースについては、教員の指導のみでは限界があり、専門家による支援が必要であると考ええる。
- ・テキストの購入が必須であることを踏まえ、できる限りテキストを活用した授業運営を行っているが、それでもなお「テキスト不要」とする指摘が継続している。これは、テキスト、ガイド、例示用パワーポイントの関係性が学生にとって分かりづらく、特にテキストが孤立して受け止められていることに原因があると考えられる。

大学と地域

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・学習時間は少ない印象であるが、講師の話を基に自ら考える力が身に付いていることが、提出物の内容から確認できた。
- ・「1. 全くしなかった」層が 10.7%存在している。この層については、振り返りレポート自体を作成していない可能性、あるいは作成に要した時間を学修時間として認識・カウントしていない可能性が考えられ、その実態が気になる。対応として、授業時間内に当日の内容を振り返る時間を設け、振り返りの重要性を明示的に促す必要がある。
- ・学修時間については、30 分未満と回答した学生が多く、1 時間以上取り組んでいる学生は全体の 15%にとどまっていた。全体としては、30 分以上 90 分未満、概ね 1 時間程度の時間外学修を行っている学生が多いと考えられる。一方で、少数ながら 2 時間以上取り組んでいる学生も存在した。
- ・学生が課題に取り組む際、課題に関する事前知識や理解度に差があることが、学修時間のばらつきに影響している可能性がある。今後は、授業後にどのように情報を整理し、学びを定着させるかについて、具体的な方法を指導する必要があると考える。

2)受講生が実感する学習成果

- ・全体として学習成果はおおむね良好である。
- ・「1. 十分得られた」層が 44.2%、「2. おおむね得られた」層が 50.6%であり、合計 94.8%の学生が肯定的に評価していることから、受講生にとって満足度の高い学習成果が得られていると考えられる。
- ・「十分得られた」と回答した学生が約 60%を占め、残りの学生も概ね肯定的な評価を示していた。一方で、学習成果をより確実なものとするためには、授業の最後に設けている振り返りの時間を、さらに充実させる必要があると考える。

3)授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・講義中において、学生が自ら考えることを意識的に促した。
- ・「1. 積極的に促していた」層が 45.6%、「2. おおむね促していた」層が 45.0%であり、合計 90.6%の学生が肯定的に評価していることから、教員の授業運営は受講生にとって概ね満足のいくものであったと考えられる。
- ・学生が授業内容をアウトプットする時間を、可能な限り多く設けた。
- ・学生から寄せられた質問を一覧化し、各回の講師に共有したうえで、その回答を学生に公開した。
- ・さらなる学修の深化を図るためには、学生がよりアクティブに学べるよう、授業方法について一層の工夫が必要であると考ええる。

4)授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・本講義はオムニバス形式であるため、講師によってテーマやキーワードが分かりにくい場合があったという指摘が複数見られた。
- ・「1. とても良かった」層が 42.7%、「2. おおむね良かった」層が 52.1%であり、合計 94.8%の学生が肯定的に評価していることから、大方の受講生の満足を得られていると考えられる。
- ・話を聞くだけでなく、自ら考え、学生同士で交流する時間が設けられていた。
- ・毎回講師が変わり、内容も異なることで、新鮮な気持ちで講義に取り組めた。
- ・講義内で回答しきれなかった質問について、後日解答が提示されていた。
- ・講義内容と「大学」と「地域」との関連性が分かりにくいという意見があった。
- ・「とても良かった」と評価した学生は 54%にとどまっており、初年次セミナーと比較するとやや低い水準であった。
- ・毎回の授業における振り返りの方法を工夫し、各回の講義内容やキーワード、ならびに大学と地域との関連性を明確に整理・共有する必要がある。

5)授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業など)

- ・遠隔講義において、教室ごとに使用するシステムが異なり、操作面で若干のもたつきが生じた。
- ・出席確認に要する時間がクラスごとに異なる点について、「格差」と受け止めた学生が一部に見られたが、その主張については教員側としては理解が難しいと感じた。
- ・音認証による出席確認を導入したことで、少数ではあるが違和感を覚えた学生がいたようである。一方で、出欠をより正確に把握するという点では一定の効果があったと考えている。
- ・大教室における Wi-Fi 環境が十分ではなく、接続の不安定さについては学生からの指摘もあり、教員

自身も同様に感じていた。今後の改善点として、授業において学生の主体的な参加をより一層促す工夫が必要である。

- ・ICT 環境の整備は重要な課題であり、大教室で多数の学生が同時に利用する授業形態を想定した Wi-Fi 環境の拡充が必要であると考える。

体育・健康科学理論

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・「全くしていない」と回答した学生は 1%であり、R6 年度前期の 6%と比較すると減少しており、一定の改善が見られた。ただし、本授業は全 8 回すべてで manaba を用いたミニッツ課題を課しているため、「0 分」との回答は実態を正確に反映していない可能性が高いと考えられる。
- ・初回授業において、健康について調べた時間や実践した時間も授業時間外学習に含まれることを説明しているが、その認識が十分に浸透していない可能性がある。今後は、この点について再度説明するなど、学生の理解を促す工夫が必要であると感じた。
- ・「全くしなかった」と回答した学生が 7.5%存在していた。講義内では、レポート課題や小テスト、日常生活における健康行動の実践などを、授業時間外学習として位置づけて説明しているが、日常的に学習時間を確保できている学生は依然として少ない状況にある。
- ・理論的に学習した内容を実生活に移すことの重要性をより強調するとともに、学びを意識して取り組んだ行動そのものが授業時間外学習に該当することについて、継続的に周知していきたいと考える。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・9 割以上の学生が学習成果を得られていると回答しており、全体として高い学習成果が確認できた。
- ・「十分得られた」「おおむね得られた」と回答した学生の合算は 99%に達していた。
- ・日常生活における健康の重要性や、体育・健康科学実習と関連づけた授業内容としていることにより、学生が学びを深めやすい授業構成になっていると考えられる。
- ・今後も、最新の知見や情報に適宜アップデートしながら、授業を実施していく方針である。
- ・必修単位として、理論と実習の講義が組まれているが、双方の授業の内容の整理を行いながら、有機的に理論と実習の往還ができるように授業改善を行いたい。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・9 割以上の学生が自主的な考察・取り組みを実感している。
- ・「積極的に促していた・おおむね促していた」の合算は、99%であった。講義内では、manaba を使ったアンケートやレポート提出、それらの内容や質問の共有を行い、自分事として考える機会となっていたと考えられる。
- ・200 名規模の対面の講義形式の授業となり、学生の取り組み状況が見えにくいとため、引き続き manaba を上手く活用していく。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・9 割以上の学生がよかったと評価しているため、引き続き、学生の興味関心が持てる授業を構成してい

く。

- ・「とても良かった・おおむね良かった」の合算は、99%であった。また、ミニッツペーパーに対する教員コメント、自分自身や身近な話題、最近のトピックを入れ込むことによって、学生の興味関心を得ることができたと考える。また、座学だけでなく、身体を動かす時間を設けたことも良かったと考えられる。
- ・総合的な評価の高さを継続できるように、授業改善等を行っていききたい。学部特性も踏まえながら、学生とのコミュニケーションを図りながら行う授業展開を検討していききたい。また、内容の精査を行いながら、時間的な余裕や学生同士のコミュニケーションの時間を確保できるようにしたい。

5) 授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等)

- ・大きな教室を利用できたため、約 220 名の学生が受講する大規模講義であっても、特段の支障なく授業を進めることができた。
- ・スライド資料を印刷配布するとともに、manaba にもアップロードしたことで、学生の予習・復習につながったと考えられる。
- ・学生数が多い講義形態であり、個々の学生との直接的なコミュニケーションは難しい状況であった。その一方で、ICT ツールや各種仕組みを活用することにより、学生からは高い満足度が得られたと考えている。
- ・授業内容については、学生が健康や運動に興味・関心を持てる構成となるよう工夫しており、今後もこの方針を継続していききたい。
- ・学生の学びをより深められるよう、授業運営の改善と工夫を重ねていききたいと考える。
- ・今後の課題として、学生の現状や関心を把握しつつ、学生の興味と取り扱う内容とのバランスを重視した授業設計が求められる。
- ・学生自身が運動や健康について主体的に関心を持てるような授業構成を、引き続き検討していく必要がある。

体育・健康科学実習

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・「全くしていない」と回答した学生は 12%であり、R6 年度後期と同等の割合であった。本授業では、紙媒体のレポート課題を 3 回、manaba への入力課題を 5 回課しているほか、スポーツ種目のルール確認等についても事前にアナウンスしているため、実態として「0 分」となることは考えにくい。
- ・学生が事前学習に該当する活動を学習時間として認識していない可能性が高いと考えられる。今後は、事前学習の考え方や具体的な実施方法について、より丁寧に学生へ情報共有していく必要がある。
- ・「全くしなかった」と回答した学生が 18.1%存在していた。講義内では、レポート課題や講義内容を踏まえて実践した身体活動は授業時間外学習に該当することを説明しているが、その認識が十分に浸透していない状況にある。
- ・学習内容を参考にして取り組んだ身体活動も授業時間外学習として位置づけられることについて、繰り返し周知を図っていききたい。

2)受講生が実感する学習成果

- ・9割以上の学生が学習成果を得られていると回答しており、本授業は概ね良好な成果を上げていると考えられる。
- ・「十分得られた」「おおむね得られた」の合算は99%であり、受講生の満足度および達成感は非常に高い水準にある。
- ・実際に身体活動を行いながら学習を進める授業形態であることが、学生にとって学習成果を実感しやすい要因になっていると考えられる。
- ・今後も引き続き、最新の知見や情報を授業内容に反映させながら、質の高い授業運営に努めていく。
- ・必修科目として理論と実習の講義が組み合わされている特性を踏まえ、両者の内容を整理しつつ、理論と実習を有機的に往還できるよう、授業改善を行っていききたい。

3)授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・9割以上の学生が、自主的に考察し取り組んでいると実感しており、授業のねらいは概ね達成されていると考えられる。
- ・「積極的に促していた」「おおむね促していた」の合算は97%であり、教員による働きかけは受講生に十分伝わっていたといえる。
- ・測定やスポーツ実習においても、単なる身体活動にとどまらず、知的学習の場として受講生が主体的に取り組んでいたことがうかがえる。
- ・今後も現在の取り組みを継続しつつ、理論科目と実習科目の間で情報共有を図りながら、受講生がより自主的に学べる実技授業の工夫を検討していききたい。

4)授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・9割以上の学生が「よかった」と評価しており、授業に対する満足度は非常に高い水準にある。
- ・「とても良かった」「おおむね良かった」の合算は99%であり、週1回の講義ではあるものの、受講生にとって貴重な身体活動の機会となっていたと考えられる。
- ・今後もこの高い総合評価を維持できるよう、授業内容や運営方法について継続的に点検し、必要に応じた授業改善を行っていききたい。

5)授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等)

- ・学生の評価から、授業構成について概ね満足が得られていることがうかがえる。一方で、クラスによってアンケートの回答率に差がみられ、88%と比較的高い回答率を示したケースもあったが、全体としては十分とは言えない状況も見受けられた。
- ・今後は、授業中にアンケートを実施する時間を確保するなどの工夫を行い、回答率の維持・向上を図っていききたい。

情報活用

1)受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・課外学習時間については、週30分～2時間未満が多数を占め、特に週1時間半～3時間未満が半数

以上を占めるなど、全体として概ね妥当な学習時間が確保されていると考えられる。授業内での作業量が多い設計である科目では、30 分以内が多い結果もみられ、想定通りの傾向である。

- ・「全くしない」「30 分未満」が一定割合存在し、計画的な時間外学習が十分でない学生がいることも示唆された。PC 使用経験の差や課題量の少なさが、学習時間の個人差に影響している可能性がある。
- ・ほぼ毎回レポート課題を課した授業では、一定時間の学外学習を促進できており、8 割以上の学生が 30 分以上取り組んでいるなど、相対的に良好な結果も確認された。
- ・今後は、レポート課題や予習課題の設定・公開方法を工夫し、授業内外を連動させた学習を促すことで、1 時間以上の学外学習に取り組む学生の割合をさらに高めていきたい。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・学習成果については、「十分得られた」「おおむね得られた」の回答がほぼ全体を占め、多くのクラスで 9 割以上、場合によっては受講生全員が学習成果を実感しているという非常に良好な結果が得られた。
- ・「十分得られた」の割合も全体平均を上回るケースがみられ、課題中心の授業構成や、無駄を排除して将来有用な内容に焦点を当てた指導、シラバスに沿った計画的な授業運営が効果的であったと考えられる。
- ・例年通り安定した評価が得られている科目も多く、学生が授業の効果を継続的に実感している点は評価できる。
- ・今後も、現行の課題中心の授業構成を基本としつつ、授業内容の充実を図りながら、次年度以降も同様の高い学習成果が得られるよう取り組んでいきたい。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・アンケート結果から、学生の自主的な考察・取り組みについては「積極的に促していた」「おおむね促していた」という評価が大半を占め、概ね良好な結果が得られている。特に、「積極的に促していた」の割合が全体平均を大きく上回るクラスも複数みられ、授業設計が学生の主体的な学習行動を効果的に引き出していたと考えられる。
- ・授業内で例題や演習に取り組む時間を確保したこと、学生自身が手を動かすことを前提とした設計、小テストやレポート課題を継続的に課したこと、さらにはデータをまとめてプレゼンテーション発表を行っている点などが、高い評価につながった要因であると推察される。
- ・例年通り安定した評価が得られている科目も多く、授業内での問いかけが学生の主体的学習を促すうえで一定の効果を上げていることが示唆される。
- ・今後は、授業中の問いかけや演習の時間をさらに充実させるとともに、習得したスキルがどのような応用につながるのかをより分かりやすく説明する工夫を行い、学生の主体的な学びを一層促進していきたい。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・アンケート結果から、実践的な課題設定や「社会に出て役に立つ内容」である点が高く評価されており、授業の総合評価は全体として非常に良好である。「とてもよかった」「おおむね良かった」を合わせた肯定的評価は多くのクラスで 95% 以上に達しており、授業の有用性や満足度の高さがうかがえる。
- ・学生が各自で作業を進めながらアプリケーションを学習できた点や、TA が配置され個別対応が可能で

あった点も、学習の進めやすさにつながった要因と考えられる。また、TA や教員に質問しやすい雰囲気づくりを意識したことも、高評価の背景にあると推察される。一方で、「授業の進度が早い」「内容がやや難しい」「回によって課題量に差がある」といった指摘も一定数みられ、特に近年になって進度や難易度に関する意見が寄せられるようになった点は留意すべきである。リレー形式やオムニバス形式の授業では、内容やレベルの統一が難しい側面もあるが、各担当者が工夫を重ねていることも評価できる。

- ・今後は、授業全体のペース配分をより意識するとともに、資料や解説を一層丁寧に行うことで、理解の個人差を緩和したい。また、次年度以降の科目構成の変更も見据えつつ、TA の役割や関わり方についても改善を図り、引き続き高い評価を維持できる授業運営を目指したい。

5) 授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等)

- ・本授業では、講義・演習・発表を組み合わせた実践的な内容を展開し、ワード・エクセル・パワーポイントといった今後の学修に必要な基礎的な PC スキルと情報教育を扱った。アンケート結果では、97%が「とてもよかった」「概ねよかった」と回答しており、授業内容の妥当性と学生の理解度の高さが確認された。
- ・ハイブリッド授業の形態についても、学生にとって利点があると受け止められており、授業への適応は概ね良好であった。PC の使用経験が少ない学生も一定数存在したが、難易度を中程度に設定したことで、多くの受講生が授業についていくことができたと考えられる。一方で、高校までの学習環境の違いにより、PC スキルや発表スキルに大きな個人差があることが明確となった。本授業はその格差を一定程度是正する役割を果たしているものの、学生間で作業進捗や課題に要する時間に差が生じている点が課題として挙げられる。
- ・TA による補助があったことで、演習中の学生対応が円滑に進み、理解が十分でない学生へのケアも可能であった点は大きな成果である。特に、教員と TA が授業中に全体を確認しながら個別に支援したことは、学習定着に寄与したと考えられる。その一方で、「授業の進行が速い」と感じた学生も一部に見られ、進度調整や個人差への配慮といった授業運営面での改善の余地が示唆された。
- ・スマートフォンやタブレット、クラウド環境の普及により、「ファイルを保存する」「保存場所を意識する」といった基本的な概念を十分に理解しないまま端末を使用している学生が増えている印象がある。このため、アカウント管理、端末とクラウドの関係、ファイル保存の考え方など、データサイエンス以前の基礎的事項を丁寧に扱う必要性が高まっている。
- ・学科特性や使用端末(Windows と Mac)の違いによる理解度の差も見られ、特に推奨環境と異なる端末を使用する学生への対応は今後の課題である。
- ・今後は、学生間のスキル差や作業進度の違いに応じた支援方法を検討するとともに、基礎的な PC 利用概念をより丁寧に扱う方向で授業内容のブラッシュアップを行いたい。また、TA の補助体制は引き続き維持し、学生の理解度に応じたきめ細かな指導を継続していく。

英語

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・週平均の自主学習時間が1時間から2時間の学生が一番多く、全体的に足りていない学生がいた。学

生が教科書の予習・復習にもっと時間をかけるように、課題やテスト等をもっと工夫したい。

- ・一番多いのが 1 時間以上 30 分未満、次に多いのが 30 分以上 1 時間未満で、それらを合わせると全体の 65%を占める。この科目の標準的な学習時間は予習 2 時間、復習 2 時間なので、やや少ない履修生もいる。
- ・受講生の 81%が週に 30 分から 90 分の準備時間が必要でした。これはやや少ないため、新カリキュラムではもう少し宿題を増やす必要がある。
- ・回答者数 26 名(回答率 72%)30 分未満 8 名(31%)、30 分～1 時間 15 名(58%)、1 時間～1 時間 30 分 0 名(0%)、1 時間 30 分～2 時間 2 名(8%)、2 時間～3 時間 1 名(4%)。授業外学習時間が 1 時間未満の学生が 9 割程いることは問題である。特に予習・復習が十分できるように、割り当てを決めて manaba の掲示板を活用したが、割り当てられた予習の書き込みができないのみならず、欠席時の復習(掲示板で確認できる)も十分にしていない学生がいるのであろう。実際、ワークブック型のテキストにもきちんと書き込みができていないか検分したが、学期末までに完成していなかった学生も数名いた(最終的には 1 人[不可]を除いて完了した)。また定期試験の結果が悪く、再試者が 6 名もいたことは試験勉強すら怠ったことの証であろう。
- ・I am satisfied that most students are spending a reasonable amount of time on outside study though perhaps a little less time than hoped for.
- ・アンケート回答者 24 名中 11 名が「30 分以上 1 時間未満」を、4 名が「1 時間以上」の学習時間を選択している。また、「30 分未満」の学生が 9 名である。授業では、課題も時間内に終わらせるようにしているので、授業時間外の学習時間がそれほど多くない結果になっていると思われる。
- ・「30 分以上 1 時間未満」が中心で、やや短めの学習時間が多い。
- ・Most of the students said they use about 1 hour for preparation.

2) 受講生が実感する学習成果

- ・「十分得られた」が 14 名、「概ね得られた」が 15 名、「あまり得られなかった」が 3 名でした。もし実力のある受講生が「あまり得られなかった」を選択していたとすると、申し訳ない限りである。
- ・配布物の拡大やテストにおける配慮などをしていただき、また、授業が体系化されており非常に受講しやすかった。さらには小テストの実施により学習経過の可視化が行えた。もう少し音読の時間を取ってほしい。
- ・このカテゴリーにおける学生からのフィードバックは概ね肯定的でした。学生は毎週の教科書演習に継続的に取り組み、さらに時事ニュースの確認にも定期的に参加していました。
- ・Overall, I am satisfied with the result of this question on the survey. Most students have expressed high learning outcomes from the course.
- ・十分 13%、おおむね 70%、あまり得られなかった 17%。授業への出席率、掲示板への書き込み、定期試験の勉強、レポート作成の課題等を見ると、熱心な学生と 4 回も 5 回も欠席した学生との 2 極分化がある。
- ・「十分得られた」または「おおむね得られた」が全てを占め、否定的な回答はなかった。
- ・「十分得られた」が 7 名、「概ね得られた」が 24 名、「あまり得られなかった」は 1 名でした。これらの結果から、概ね受講生は学習成果を実感していたものと思われます。

3)授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・「積極的に促していた」「おおむね促していた」が多かったようだ。ある程度自主的に取り組めていたのではないと思われる。
- ・授業期間中に受講生自身に授業内容について考えさせるような促しがありましたかという問いに対しては、積極的に促していたが 87%、おおむね促していたが 13%であるが、学生の自主的な取り組み(小テスト対策やプレゼン資料の作成など)も顕著に見られた。
- ・100% (32名)は「積極的に促していた」や「おおむね促していた」を回答した。
- ・I am satisfied with this result. I think it shows that the focus of the classes is clear to the students and they are being encouraged to actively engage with the material presented.
- ・「積極的に促していた」「おおむね促していた」と答えた学生が多かったが、「促していなかった」と答えた学生もあり、工夫が必要である。
- ・積極的に促していたとする学生が 86%、概ね促していたとする学生が 14%だった。授業内容を簡潔に伝え、学生の活動を増やす工夫を行なったため、妥当だと考える。
- ・「積極的に促していた」が 15 名、「概ね促していた」が 15 名、「あまり促していなかった」が 2 名でした。これは、ペア・グループワークを中心とした授業構成が、学生同士の対話や協働的な学びを促進し、各人の自主的な取り組みに繋がったものと思われる。

4)授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・The results here were very positive especially in terms of practical skills learned, pair and group work, instructor feedback, and the English only teaching method.
- ・「とても良かった」「おおむね良かった」合わせるとほぼ 100% である。専門の内容を含む翻訳の練習と専門用語の小テストと、様々なニュースを英語で読むことによって、今までの視点とは違う視点を得られたと記述している。
- ・授業の総合的評価は、とても良かったとする学生が 89%、概ね良かったとする学生が 11%だった。指摘された点としては、「グループ活動で個人によって労力が大きく異なることがあった。」「グループワークは、グループの中で係のバランスが取れてなく、動く人と動かない人の差が大きかった。」また、「グループワークであったため、リーディングやリスニングに焦点を当てることが少なかった。」との指摘もあった。グループ活動を活性化させながら、四技能をバランスよく取り入れる学習方法を検討する必要があると感じた。
- ・とても・概ねを併せて、およそ 8 割。英文による板書が読みにくいとの指摘あり。
- ・テーマごとに英語のプレゼンテーションがあり詳しく知ることができ楽しかったという意見がある半面、プレゼン資料を作る作業がメインであり、正直 AI を使って楽をする人もいると思うため、実際に英語力が向上しているかが不明であるという指摘もあった。
- ・とても良い 11 名(52%)、おおむね良い 10 名(48%) 学生の自由記述:
良かった点:発音について詳しく学べた・何度も聴解の反復練習ができた・音楽リスニングで楽しく学べた・文章のパラグラフの勉強ができた
改善点:特になしが多い。提出物はテキストの書き込みより印刷したものに書き込む方が良い。進度をもう少し速くしてほしい。
- ・「とても良かった」が 14 名、「概ね良かった」が 17 名、「あまり良くなかった」が 1 名でした。上の 2 つの

質問事項の回答結果とほぼ同じ結果となった。

5)授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等)

- ・今回、友人の教科書を複写し、自分のタブレットに保存して教科書を購入しない学生が散見された。今後はさらに増加するのではないかとされる。
- ・今回の「授業改善メモ」を通して授業を振り返り、次回の改善を考えるのに役立てたい。そして、真摯に学生の意見や要望に答え、授業改善の工夫をしたい。
- ・もう少し音読などの作業を増やした方が効果的なのではないかと感じた。プレゼン発表のグループメンバーが多すぎて役割分担が偏ることがあったように思える。
- ・教科書を消化することが本コースの最終的な目標ではないし、教科書はあくまでも学習・練習のツールの一つに過ぎないとしても、もう少し教科書を進めたい。
- ・このクラスはおとなしい学生が多く、理解度や授業内容についての反応が気になったが、コメントを見ると概ね問題なかったようで少し安心した。
- ・学生の授業に取り組む姿勢には温度差がある。意欲のない学生は単位取得のみが目的となり、英語力を高めるといった目的意識がほとんどないようである。特に1年生の場合、規則的で健全な生活習慣の確立とそれに伴う自主的な学習時間の確保(学びへの勤勉な姿勢)が何より必要ではないか。学生たちが大学で学ぶ喜びを健全な形で享受することを願う。
- ・グループプロジェクトでは、うまく協力し合えたチームは授業の満足度も高いが、負担が偏ったチームは不公平感を感じるようになるので、グループワークの進め方についてもう少し研究したい。

日本語・日本事情科目

1)受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・4、5、7(30分～4時間)の回答が多く、個人差はあったようだが、ボリュームゾーンは1.5時間前後であり、予復習や授業課題負担は適正だったと考える。
- ・30分から4時間までかなり学習時間に開きがあったが日本語能力の差もあると考えられる。

2)受講生が実感する学習成果

- ・全て1(十分得られた)、2(おおむね得られた)との回答であり、学習者側から見ても一定の学習効果が感じられたものと解釈できる。
- ・十分あったが80%以上と非常によい学習成果があったと考える。

3)授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・全て1(積極的に促していた)、2(おおむね促していた)との回答であり、授業時間中における自主的な取り組みを促す取り組みがあり、一定の学習効果が感じられたものと解釈できる。
- ・80%以上が十分あったと回答しており、授業内で活発なやりとりがあったと思われる。

4)授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・(おおむね～)の1名以外は1(とても良かった)と回答し、担当クラスの自由回答を見ても、授業内容や

クラスの雰囲気について肯定的なものが多かった。

5)授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等)

- ・今年度は日本語力別のクラスを開講できなかったこともあってか、クラス内の日本語力、IT リテラシー等の個人差が大きかった。特に低いレベルの学生が無秩序にAIに頼らなくても対応できるような課題の設定を工夫したい。
- ・グループワークなどを通じて各国の生活の違いと知ることができて留学生同士の交流もできた。パソコンに向かっている学生もいたが概ね考えながら授業を受けていた。

初修外国語

1)受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・manaba での e-learning について繰り返し授業内で指示したことで、授業外学習にしっかりと取り組んでいる学生が多く見られた。
- ・30 分から 1 時間が 5 割、1 時間から 1 時間 30 分が 3 割である。科目の平均からしても多い方である。
- ・アンケート回答者の全員が授業時間外に 30 分以上 3 時間未満の学習を行っていたのは、大変に心強かった。

2)受講生が実感する学習成果

- ・回答者の 100%が「十分得られた」「おおむね得られた」となっており、一定の学習成果を実感していることが窺える。
- ・マイナスが一切ない結果には概ね満足。「十分得られた」の割合をもう少し上げたい。
- ・十分得られたと考えている学生が半数以上で、教える側としては嬉しい結果であった。

3)授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・独語は他の初修外国語と比較してこの項目の評価が低い、このクラスの受講生に関しては平均を上回っている
- ・「1. 積極的」が 80%を超えていたのには満足とともに驚きもある。こちらの意図を汲んでくれた学生に感謝したい。
- ・積極的に授業に取り組んでいる様子が見えて、大変に心強かった。

4)授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・満足度は概ね高いものの、例年と比べるとやや低かった。ペアワークで実践的な会話練習をしたことやアプリの活用について、高く評価するコメントが目立った。
- ・総合的評価も平均以上であり、おおむね受講生から肯定的に受け止められたことが分かる。13 名の自由記述に関しても授業の方法や内容についてすべて好意的なコメントとなっている。改善点についても特に大きな指摘はなかった。
- ・「1. 積極的」が 85%を超えていたのには満足とともに驚きもある。こちらの意図を汲んでくれた学生に感謝したい。

5)授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等)

- ・受講生の履修態度は良好で、初めての外国語にもかかわらず、積極的な関心をもって受講している学生も多い。ただペアワークの口頭練習を実施する関係から、受講生に対して教室が狭く、通路を挟んでのペアワークなど少々やりにくいところもある。また受講生に対してまったく余裕のない(空席の余地のない)教室は今後の感染症の発生のリスクを考えると、できれば避けたいところである。
- ・フランス語は最初に進度を上げすぎると脱落する学生が多いので、少しゆっくり目にしていたが、本学ならば最初もう少し進度を上げても良さそうだと感じた。
- ・もう少し積極的な態度が外に見えるようになればもっと良いと思うので、工夫したい。

異文化理解入門

1)受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・わずかだが、「まったくしなかった」を選択した学生がおり、授業外学修の指示が行き渡っていなかった可能性がある。

2)受講生が実感する学習成果

- ・概ね成果を実感しているようである。

3)授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・なし

4)授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・引き続きオンデマンドであることの利便性について言及する学生が多かった。

5)授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等)

- ・なし

教養基礎科目

1)受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・昨年度よりも時間外学習の時間が増えており、週 2 時間以上の学生も複数見られた。課題の量と回数を増やしたのが奏功したと思われる。授業の他に、参考となる動画サイト等の視聴を勧めて、更なる時間外学習の増加につなげたい。
- ・30分以上1時間未満が 29.2%、1時間以上1時間30分未満が 25.3%、1時間30分以上2時間未満が 11.4%、よって総計 65.9%、授業時間外学習が一定程度確保されていると思われる。
- ・大学設置基準の定める授業時間外学習の時間には遠く及ばない。予習課題の内容からすれば、少なくとも大学設置基準の定める授業時間外学習の時間を費やさなければならないはずであるので、これ以上の改善の方策が思い当たらない。

- ・少ないように感じるが、学習時間だけでなく、普段から「考える」ことをしてきたことが、最終レポートからわかる。
- ・全くしなかったが 0.5 割程度いるが、30 分～1 時間以内が 49%であった。全体では 30 分以上の学習の学生は 62%であったことから昨年の学生より学習時間も増えていた。
- ・1割が全く学習なし、6割が1時間未満、残り3割が1時間以上の学習時間だった。期末レポート以外は講義時間中の簡易的な小テストで成績評価をしている状況で、授業時間外学習に対する強制力はない。
- ・1割が全く学習なし、7割が1時間未満、残り2割が1時間以上の学習時間だった。期末レポート以外は講義時間中の簡易的な小テストで成績評価をしている状況で、授業時間外学習に対する強制力はない。成績評価を伴う様な強制的な授業時間外学習の課題は提示する予定はない。しかし、自主的に授業時間外に学習することができるテーマの提示はあっても良いだろう。また、予習を促すこともできる。
- ・全学部(専門以外の学生を含む)を対象にした授業で、ウイルス感染症について身近になってもらうことを主眼としているので、授業をしっかり聞いて貰えば良いと考えております。
- ・平均で 1 時間といったところで、科目の性格からすれば、こんなところと思う。
- ・毎時間の小レポート作成のために数時間はかけているようだ。「400 字以上」と設定したが、予想以上に時間がかかっている。
- ・30 分以上 1 時間未満の割合が 48%で自然科学分野(選択科目全体)よりも明らかに高く、4. 1 時間以上 1 時間 30 分未満は 22%、5. 1 時間 30 分以上 2 時間未満は 6%で、自然科学分野(選択科目全体)と同程度であった。毎講義後に manaba でレポートを課したので、一定の学習時間が確保されたと思う。
- ・以前、レポートは宿題としていたが、授業時間内にレポートを提出させるスタイルに戻した途端、学習時間が減少した。授業時間外学習をどのようにとらえているのか。自己研鑽のためであってほしい。
- ・集中講義の期間中、授業時間以外に合計でどのくらい学習・探求時間を 30 分未満で答えてあるが、事前・後の学習・探求時間が少ない。宿泊実習の際に、時間外での学習会や課題を課することで授業時間外の学習時間を増やすように対応する。
- ・データ整理や発表練習にもう少し時間が必要かと思っていたが、そうでもなかったようだ。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・回答者全員が大いに・おおむね学習効果が得られたようだ。知識獲得型の授業では復習や繰り返しが特に重要であることを示していきたい。
- ・「十分得られた」、「おおむね得られた」という回答が多かった。
- ・十分得られたが 54%、おおむね得られたが 41%、よって総計95%、受講生のほとんどが成果を実感していると思われる。
- ・自由記述からすれば、一定の成果があったとは思われる。
- ・おおむね良好。
- ・充分得られたが 84%、おおむね得られたが 16%で成果は得られたことがわかった。
- ・「十分得られた」が4割に達し、5割が「おおむね得られた」と回答した。学習成果の確認に小テストが多少有効であった。質疑応答に十分時間をかけて丁寧に解説することやゲスト講師の部分担当が好評

だった。小テストの内容にさらに工夫を凝らすことがポイントとなるだろう。スライドの見やすさ、難しい内容を平易な言葉で説明することにも留意する必要がある。

- ・毎回アンケート(レポート)を提出してもらっており、多くの学生がそれぞれの講義で勉強になったことがあると回答しているようです。
 - ・例年と同じ水準で、9割以上が成果を実感しているとのこと。
 - ・小レポート作成の過程で、通常の座学授業よりも、知識が身についている。
 - ・「十分得られた」の割合が39%、「おおむね得られた」の割合が55%で、自然科学分野(選択科目全体)と同程度であった。基礎的な内容と発展的な内容の両方を話したのが評価されたと思うので、今後も、そのような方向性で取り組みたい。
 - ・学生の満足度は高く、十分な学習成果が得られている。
- 第1回の授業以前に取ったアンケートでは、焼酎に対してネガティブな意見が多かったが、15回の授業として、焼酎の魅力を感じた学生が大半を占めた。
- ・「十分得られた」の回答から、引き続き実習内容の充実に努める。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・「あまり促していなかった」と回答したものが1名いた。説明の多い授業内容なので、促しが少なかったと判断されたのではないかと思う。テキストの例題を応用した問題を出題し解答させるなどして、考えさせる時間を増やしたいと思う。
- ・授業時間内に学生が自分の考えをアウトプットする時間を設けた。選択式の確認問題を作成し、毎回小テストとして課すことで、授業内容を復習しやすいようにした。
- ・積極的に促していたが64.8%、おおむね促していたが32%、よって総計96.8%、受講生のほとんどが考えさせる促しを実感していると思われる。
- ・例年のことだが、全体として、前期の学生(前記は2クラスとも教育学部生指定である(他に、法文学部生も指定されているが少数))は後期(自然科学系学部の指定)の受講生に比較して相対的に取り組みが弱く、本科目が教育職員免許法施行規則66条の6による必修科目であることから考えても、この取り組みの弱さは問題である。左記の問題については、これまで様々な改善方策を検討し、それらを実施してきたが、基本的に変わるところがない。一度、教育学部の責任ある立場の先生と、この問題について懇談の機会を持ちたい。
- ・講義時間内にできるだけ学生に考える時間を与えた。
- ・積極的に促していたが65%、おおむね促していたが35%と考えさせる内容であったと思われる。
- ・4割程度が「積極的に促していた」と答え、5割が「おおむね促していた」と答えた。小テストの内容に対応して、講義中において自主的に考察しなければならない状況にある。考察のポイントを明示する必要があるだろう。予習を踏まえて講義中に質問するなど、さらに考察をし易くする指導もあるといいかもしれない。
- ・授業をしっかりと聞いて身につけようとする態度を多くの学生が持っていたようです。コメントの中には教官の持つ常識的な考えとは異なるアイデアを持つ学生もいてよかったと思います。
- ・学生同士の意見交換(提出課題の相互参照や授業内でのアンケート利用)を重視している。このまま継続したいが、manabaのアンケート機能の使い勝手が非常に良くないのでなんとかしたい。
- ・ノートを沢山とる必要がないように、授業内容の資料はすべて事前公開している。

- ・積極的に促していたと答えた割合が 40%、おおむね促していたと答えた割合が 52%で、92%が促していたと感じた。毎回ではないが、簡単な質問を混ぜながら講義を進めたのが評価されたと思うので、今後も、そのような方向性で取り組みたい。
- ・毎回授業時間内にレポートを提出する方法がほとんどで、学生は概ね熱心に作成しており、疑問点や自分なりの見解を記述している内容も多くみられた。
- ・授業時間内にレポート作成の時間が設けられていたことについて、「振り返りの機会となった」「すぐに理解をアウトプットできた」と好意的な評価が目立った。
- ・受講生に自ら考えるように積極的に取り組んだ。

4)授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・パワーポイントを使わないので、特に板書には気をつけて、丁寧に読みやすい字を書くことを心掛けた。この点を評価していた学生が複数名いて良かったと思う。受講生が初学者であることを常に意識し、今後もわかりやすい丁寧な授業ができるよう努めたい。
- ・良かった点として次のような指摘があった。「実例や具体例を用いており内容がわかりやすく、倫理学に興味を持たせる授業だった点」。「生徒の質問をとてども丁寧に扱っていて、質問を考えるために内容を深く考えるようになった」。改善点として次の指摘があった「専門用語の解説をもっと細かく行ってほしい。」専門用語をもっと丁寧に説明するようにしたい。学生にわかりにくかった専門用語を確認するようにする。
- ・とても良かったが 57.7%、おおむね良かったが 38.2%、よって総計 96%、受講生のほとんどが授業を評価していると思われる。授業初回に manaba を通して受講生向けに配布している
- ・教員自らの体験を例示したことが評価されている。
- ・とても良かったが 89%、おおむね良かったが 11%で昨年の結果より評価は高く、特に指摘事項はなかった。今後も引き続き自分事として考えさせるようなアクティブラーニングや体験、ディスカッションなど、この方針は変えずに実施する。
- ・「とても良かった」が3割に留まり、「おおむね良かった」が6割、残り1割が「あまり良くなかった」と答えた。基礎的なものから専門的な内容まで広く授業で取り上げた点が評価された。講義内容が一部で盛りになってしまっていた部分は改善していく。学生によって事前知識が大きく異なることを念頭においた授業の内容・ペースを検討する必要がある。
- ・9割が「とても良かった」、「おおむね良かった」と答えたが、若干名があまり「良くなかった」と答えた。(教養科目なのに)「専門的過ぎる」というコメントがあった。小テストの時間が短すぎるという不満が多かった。特定分野を専攻しようとしている受講生だけが興味をひく・理解できる様な話は、それらを見極めた上でできるだけ省き、高度な思考・考察が必要ではあっても論理的に考えていけば理解できる内容を厳選して授業を展開する努力が必要。
- ・ウイルス(感染症)について知ってもらうという目的は果たせているものと思います。より強い興味を持つ学生が自主的に感染症の勉強を継続して自己の専門分野に活かせることができるようになることを願います。
- ・講義内容ではなく、講義室の問題(Wi-Fi が繋がらない、出席登録の音が講義室の後ろでは届かないなど)といった不満が散見された。履修生数が多いため、人数制限を検討したい。
- ・授業の量が多すぎるとの指摘があったが、減らす訳にはいかない。授業資料はすべて、公開している

ため、それで復習してほしい。

- ・実験材料の実物を見られた、説明が分かりやすかった、適度な難度であった、対面と遠隔の両方で受講できる点良かった。今後も、同じような評価を得られるように取り組みたい。
- ・総合的に評価は高く、良かった点も多いと感じられる。しかしながら改善を求められていることもあり、オムニバスであるので各教員自身が改良を心がける必要がある。
- ・スライドの文字サイズが小さく、教室内のモニターの反射や視認性の問題から内容が読みづらいという声があり、毎回講師が違うため同じ内容の繰り返しといった指摘があった一方で、スライドの視認性や資料の活用、実物の提示(麴・焼酎もろみの匂いなど)など、視覚や体験を取り入れた講義スタイルが良かったとか、講師ごとの視点の違いや経験談から類似する内容ではあるが興味深かったなどの意見も数多くあった。
- ・充実し、楽しく授業に臨むことができたとの評価から、引き続き授業内容の充実に努める。ただし、食事の量が少ないとの意見があった。実習を受講する学生それぞれに平等な食事の量を準備したが、個人差を理解し、事前に各自追加の準備が出来るように周知することと、実習の際に個別に確認し、対応する。

5)授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等)

- ・「質問を考えるために内容を深く考えるようになった」という学生の意見は励みになった。さらにそういう学生を増やせるような工夫を考えたい。
- ・全 15 回の授業のうち、インタラクティブな授業方法が前半に偏り、後半はそのような授業方法が少なかったことを指摘する自由記述があるが、なぜそうなったのかは、受講生の側が自らの胸に手を当てて考えるべきである(「発表を強制してくる点」などという回答が出るクラスにおいて、インタラクティブな授業方法をとることはできない)。
- ・受講生が多すぎて、学生の反応を確かめながら講義することができない。学生からの評価はいいので、今後も続けていきたい。
- ・今後も引き続き自分事として考えさせるようなアクティブラーニングや体験、ディスカッションなど、この方針は変えずに実施する。
- ・受講生が受講当初から知っていた、理解していた内容に大きな開きがある。教員側で重要だと考える内容が受講生の一部からは「専門的過ぎる」という指摘を受けた。ゲスト講師とは、1年生対象にかなり専門的な内容を詰め込み過ぎたという証言を得ている。小テストに時間内に回答できる様にノート・メモをしっかりとる、教員のコメントを注意深く聞き取り、批判的に授業を受講する、さらに事前に資料に目を通しておく必要があることを、受講生に説明する必要がある。ゲスト教員の経験も上がってきているので、内容が精練されるものと期待される。
- ・受講生が多いためエアコンの調整などで受けやすい環境にすることが必要と思いました。
- ・授業の資料が読みにくいとの指摘がある。教科書を 10 月に出版予定であり、それに代えたい。
- ・回答者は履修登録者の約半分なので、熱心な受講者が回答してくれた可能性がある。アンケートを実施する時間帯を検討する。
- ・毎回授業時間に作成して提出するレポートの評価(評点)の平均が最終評価であるため、遅刻者や途中退室者はほとんどいなかった。多くの教員が厳正に評価しているため、欠席が多くなると単位取得が困難となっている。

- ・回答した学生が少ないので、回答を周知するようにする。
- ・4 人中 1 人しかフィードバックがこない、次にいかしにくい。学生一人に教員一人つけているため、誰のアンケートかわからないと対応しにくい。

基礎教育入門

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・30 分以上が 9 割を占めている。毎回復習用に課題を課すことで授業時間外の学習に充てられている。毎回の復習課題は継続する。毎回の復習課題は継続する。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・十分～おおむね得られたが 89%となっており、ほとんどの学生にとって学習成果を実感できている結果となっている。よかった点として復習課題の解説が充実しているという点を挙げる学生が複数いるため、自分が解いた問題の正誤を詳しく見直せるためより実感が持てているのではと推測する。復習課題の解説は継続する。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・自主的に考える促しは、97%があったと答えている。授業中に進めている内容の問題を解かせる時間があることがこの結果となったと考えている。授業中の問題とその解説は継続する。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・ハイブリッドで授業を行い、参加はオンライン・対面を選択でき、授業動画も全て見直せる様にしているため、この点がよかったと回答している学生が多かった。天候不順や体調によって参加形態を自分で選択できる点がよかったようだ。また身近な例をたくさん示した点も評判がよかった。その反面進むスピードが早くなり、そこが改善点として挙げられた。教える内容を調整してスピードが早くなりすぎないように注意したい。
- ・ハイブリッドで授業を行い、参加はオンライン・対面を選択でき、授業動画も全て見直せる様にしているため、この点がよかったと回答している学生が多かった。天候不順や体調によって参加形態を自分で選択できる点がよかったようだ。また視覚的に分かりやすく示した点も評判がよかった。オンラインで受けられる利点は、集中できないという欠点にもなる(水産学部のためキャンパス移動できる時間がないためオンラインを選択せざるを得なかった)。今年度から 1 限にも学部の授業が入れられており、キャンパス移動できないと苦情が入った。オンラインで対応したが、対面で受けたい学生もいたよう。来年度からは時間割は変わるが、キャンパス移動できない時間割になった場合には学部と話したい。

5) 授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等)

- ・進むスピードが早く早口になってしまう回が出た。教える内容を精査したい。
- ・アンケートの回答率が悪い。授業内で時間をとれなかったためだと考えられる。視覚化の演習を増やしてほしいとの要望があるため、検討する。教える内容を調整し、視覚化の演習を増やせるか検討する。

教養活用科目

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・1 時間未満が全体の 90%だった。
- ・1 時間未満の学習時間であった学生が 70%であった。予習課題や自主学生課題の課し方を工夫して、少なくとも 30 分以上の学習時間を確保したい。
- ・全体的に短いものの、2 時間以上や 3 時間以上との回答も見られた。
- ・多くの学生が 5 時間 10 時間未満を選択していて、授業時間外にもしっかり学習に取り組んだことが伺える。
- ・状況を理解した。
- ・「30 分未満」と「30 分以上 1 時間未満」が多かった。主に課題に取り組んだ時間と考えられる。オムニバス形式で内容が多岐にわたるため、指定教科書はなく、予習させることは難しい。
- ・30 分以上 1 時間未満(42%)の学生が最も多く、ついで 30 分未満(24%)、1 時間以上 1 時間 30 分未満(14%)であった。概ね、しっかりと学習していると思われる。これまでと同様に授業前日までには講義資料を manaba へアップロードし、予習を促すよう対応していく。
- ・アンケートへの回答数が多くはないが、回答の中ではレポートを書かせるため、学生は時間をかけているということであろう。
- ・1 回の授業毎にミニテストを課しているが、そのために「このテーマの学習は終わった」印象を与え、授業外の学習が想定より少なくなっていると評価する。授業の後半で金融リテラシー検定の受験があることを繰り返し周知する。
- ・毎時間の小レポート作成のために数時間はかけているようだ。「400 字以上」と設定したが、予想以上に時間がかかっている。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・「十分得られた」、「おおむね得られた」という回答が多かった。
- ・学習効果が「十分得られた」「おおむね得られた」で 93%に達した。
- ・全ての学生が何らかの学習成果を得られたと考えている点は良かったが、具体的にどのような点かわからないので改善しづらい。
- ・「十分得られた」、「おおむね得られた」という回答が多かった。
- ・「十分得られた」と「おおむね得られた」が多かった。
- ・十分得られた(53%)、おおむね得られた(47%)とほぼすべての学生が学習効果を得られていると回答しており、良かった。「十分得られた」が増えるよう引き続き努力したい。
- ・授業の合間でも「さらに詳しく学びたい(大抵は投資の具体的な手法や資産運用についての)」と金融リテラシーからやや逸脱する質問があったことがアンケートでも確認された。さらに進んだ学習をしたい場合のデジタルコンテンツ、教科書を参考書として提供する。
- ・小レポート作成の過程で、通常の座学授業よりも、知識が身についている。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・授業時間内に学生が自分の考えをアウトプットする時間を設けた。選択式の確認問題を作成し、毎回小テストとして課すことで、授業内容を復習しやすいようにした。
- ・自主的な考察・取り組みは「積極的に促していた」「おおむねうながしていた」が 96%に達した。
- ・グループワークについて、ただ話をさせるだけでなく、授業内容について考える機会として明確に位置付けるよう留意した効果が、学生からのコメントからわかった。
- ・学生同士が話しやすくなるような環境づくりをした。普通の観光ではいけない施設を訪問先として選んだ。
- ・「積極的に促していた」と「おおむね促していた」が多かった。
- ・積極的に促していた(44%)、おおむね促していた(37%)と回答しており、良かった。昨年度は積極的に促していた(25%)、おおむね促していた(36%)であったので、担当の先生方の取り組みが学生に伝わったのだと思う。「積極的に促していた」が増えるよう引き続き努力したい。
- ・積極的に促していた(44%)、おおむね促していた(37%)と回答しており、良かった。昨年度は積極的に促していた(25%)、おおむね促していた(36%)であったので、担当の先生方の取り組みが学生に伝わったのだと思う。学生がより積極的に自主的な考察や取り組みができるよう、さらに工夫していきたい。
- ・オムニバス形式での授業であるため、考えさせる内容・時間を十分に確保できていない。ゲスト講師の講義時間を少し減らし、主担当教員による授業の意義や目的を伝え、学生に考えさせる内容を増やす。
- ・ノートを沢山とる必要がないように、授業内容の資料はすべて事前公開している。

4)授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・総合評価は「とても良かった」「おおむね良かった」が 96%に達した。
- ・教員 2 名で実施しているが、評価に違いがあるようなので、そもそも授業の担当の仕方を変えていく必要がある。
- ・教える内容を精査したい。
- ・「とても良かった」と「おおむね良かった」が多かった。自由記載でも「専門知識がなくても理解できた」、「オンラインで受講できた」、「様々な歯科分野について学ぶことができた」など概ね好評だった。音声や画像のトラブルがあった回があった。配信トラブルの原因は不明だが、教員側の環境について確認を促したい。
- ・とても良かった(58%)、おおむね良かった(42%)とほぼすべての学生が高評価であった。オムニバス形式の授業であったが、普段聞くことのできない医療分野のさまざまな話を聞くことができたことを評価する意見が多く見られた。
- ・学生がより積極的に自主的な考察や取り組みができるよう、さらに工夫していきたい。
- ・1または2であり、満足できる結果である。
- ・金融リテラシー検定は全員が合格し満足しているが、さらに高次の学習をしたいと考えている学生がいることが確認できた。

5)授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等)

- ・「質問を考えるために内容を深く考えるようになった」という学生の意見は励みになった。さらにそういう学生を増やせるような工夫を考えたい。

- ・学生が講義前に提示した予習課題に取り組む時間を持つように講義を設計したい。
- ・宿の部屋の鍵をなくした学生がいた。外出の際は、必ず鍵を宿に預けるように注意を促したい。
- ・履修生 289 名に対しアンケートの回答数が 52 と少なかった。最終回の担当者にアンケートへの回答を呼びかけるよう依頼するなどしたい。
- ・しっかりと授業を聞いている学生が多い一方で、後方の席で居眠りしている学生も多少見受けられた。来年度は、学生の授業への参加を促すような試みも行っていきたい。評価をレポート提出で行っており、授業中にも剽窃などについて説明をしているが、レポートの書き方(引用と剽窃の違いへの理解や、剽窃は“やってはいけないこと”という認識を持つこと等も含めて)について、初年次セミナーだけでなく、学年があがってもきちんと学ぶ機会を増やして欲しい。
- ・履修態度もよい。改善するとすれば、少しは授業中に学生の意見交換のようなものでも行ったらより活性化するかもしれない。
- ・金融リテラシー検定は全員が合格し満足しているが、さらに高次の学習をしたいと考えている学生がいることが確認できた。学習レベルを一段高くし、さらなる学習意欲のある学生には追加のコンテンツを提供する。
- ・授業の資料が読みにくいとの指摘がある。教科書を 10 月に出版予定であり、それに代えたい。

高度共通教育科目

1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・当該設問の平均値は 3.57 ポイントであり、2 時間前後の授業時間外学習に取り組んでいる学生が多いことが分かった。授業時間外学習をより促すよう、具体的にどのような学習に取り組むべきかの指針を示す。

2) 受講生が実感する学習成果

- ・当該設問の平均値は 1.57 ポイント、最低値は 2 ポイントであり、学生は高い学修成果が得られたと感じていることが分かった。引き続き、到達目標を定期的に示すことで学生自身の学修成果の実感、自己評価を促す。

3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・当該設問の平均値は 1.42 ポイントと非常に良い結果であった。一方で、最低値は 3 ポイントであり、「あまり促していなかった」との回答も 1 名みられた。授業中に「考察タイム」のような自主的な考察の時間を設け、スライドで明示することで、全ての学生が主体的な考察に取り組むよう促す。上記の授業改善に取り組み、より高い評価を目指す。

4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・当該設問の平均値は 1.28 ポイントと、アンケート項目の中で最も高い評価であり、総合的な満足度は高いことがわかった。また、「受け身な講義ではなく、学生が主体的に動けるように構成されており、より記憶に残りやすかった」といった、本授業におけるアクティブラーニングに対する肯定的なコメントが多く見られた。

5) 授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等)

・なし

学芸員資格科目

1)受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・やや短い
- ・授業で使用するスライドについては事前に公開しており、講義内容についてある程度把握できるようにしている。また、授業で使用した動画のリストも作成し、復習できるようにしている。

2)受講生が実感する学習成果

- ・おおむね良好だった。
- ・「十分得られた」「おおむね得られた」と感じた学生が 95%程度であったことから、授業内容については満足度が高かったと理解している。

3)授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・おおむね良好だった。
- ・授業内でのディスカッションを数回設け、また評価レポートについてもそれぞれの考え方について述べるものをテーマに取り入れていることから、ある程度促すことができたと考えている。授業内での学生の様子を見ても、ディスカッションは主体的に考えるために有効であると思われるため、ディスカッションのテーマ・回数を増やしていきたい。

4)授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・良好だった。
- ・授業内容をわかりやすく振り返るために、最終日は動画を見てもらう時間を多くとっているが、授業の感想を見るとかなり効果的であった。また、理論だけでなく実際の現場についてできる限り現実を伝えているが、おおむね好評である。現場の実情を、できる限り伝えていきたい。

5)授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等)

- ・受講生の履修態度はすこぶる良好である。以前に比べて資格を得るだけでなく、学芸員を職業として選択肢のひとつと考えている学生が増えていると感じる。できるだけ実体験に基づいて話したり、学芸員以外にも博物館に関わる企業の例を示したり、進路の参考にしてもらうように話をしている。

公開日 令和8年1月30日

文責 鹿児島大学共通教育センター

FD委員会委員長 井村隆介